

一九二九年三月一日、ビキニ環礁で行われた米国最初の熱核反応を利用した三F(分裂・融合・分裂)爆弾の威力は一五メガトンといわれるが、風下三五〇キロメートル離れた海上でも、爆発後九六時間に蓄積したフォールアウトによって受ける被曝線量は三〇〇レ

第五福竜丸の日

小野 周

ムに達したとされている。これは半致死線量に近い。第五福竜丸はこの距離の半分以下のところにいたわけである。
こうして、第五福竜丸の乗組員は、ロンゲラップ島の住民とともに被爆した。これは、軍事科学の人類への挑戦であり、私自身も、このとき本心に、核兵器が人類の破滅への道であることを、心から感じた。よく知られているように第五福竜丸の乗組員の久保山愛吉氏は、九月二三日に放射線障害のために死去した。
この三月一日を毎年三・一ビキニデーとよんでいるが、このビキニデーというよび方には、いろいろ異論もあるようである。私は、これを第五福竜丸の日、と改称することを提案するつもりではないが、私にとっては第五福竜丸の日である。それに、第五福竜丸の名前をもう少し多くの人に知ってもらいたいと思う。これは、三月一日の実験をもっとよく知ってもらうためにも必要である。原水禁の国際会議で、英語のラッキー・ドラゴン(福竜丸)と訳さず、「ラッキー・ドラゴン」という地点」と訳

しているのをきいたことがある。これも福竜丸がよく知られていないからであろう。
ビキニ環礁というのは、三月一日のブラボー実験だけでなく、一連の核爆発実験が行われたところで、これをとってビキニデーとよぶのには抵抗を感じる人もあると思う。それに、このまま英語にするのもあまり適当ではない。何かいい名称を考える必要があるのではないか。
群馬大学学長・平和協会評議員

「平和と展示館」

いぬい とみこ

七月二十日、夢の島の第五福竜丸展示館を、画家の津田櫓冬さんと編集者金森三千雄さんと初めて訪ねた。外には夾竹桃の花が赤く燃え、木造の漁船「第五福竜丸」は、物として、そこに存在していた。
この船が二十三人もの漁船員とともに、遠く南太平洋まで航海していったことを思うと、そして様々な運命をその木の肌を受けとめて、しかも静かに存在していることを思うと、ここへ長年来ずいた自分が恥かしかった。
『トビウオのぼうや』は病気でその間私の反核への思いは、どうしても広島・長崎につよくむけられ、「第五福竜丸」との対面が、ほんとうにおそくなってしまう。
六月九日ニューヨークの国連総会議場での鈴木首相の演説をきいた関屋綾子氏が、「もはやあり得ぬ南太平洋核投棄」という副題で六月十三日附朝日新聞の「論壇」にのべていられたことが、そのときはっきりと思ひ出された。ニューヨークでの市民レベルの集会の際、非核憲法を持つ南太平洋ペラウ共和国代表は、ビキニをはじめとする水爆実験の汚れた灰で放射能にさらされた島の人びとのスライドを示しながら、関屋氏にじっと目をむけて、「日本はこの海に核廃棄物を捨てようとしている。ぜひ止めてほしい」と訴えた。この言葉の真の受け手は一体誰か？ それに「平和憲法」を骨ぬきにする

福竜丸だより

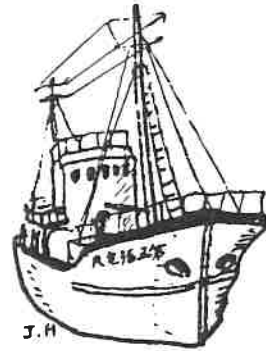
都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を！

'82年11月来館者数	10,611名
通算1ヵ月平均来館者数	4,242名
当月1日平均来館者数	424名
通算来館者数	322,393名



福竜丸によせて

利波多美

平和協会創立八周年を祝し
期待を記念号によせて

福竜丸が全世界の注目のまよになった頃は、久保山さんとも世間の口、マスコミの筆になやま

れて、福竜丸を美しい夕日の海に沈めて静かに眠らしたいと真剣に私に訴えられました。でもそれは日本の平和にとって、世界の平和にとって大きなマイナスであることとを話しましたが、なかなか納得してもらいませんでした。
でも今、多くの人々が福竜丸展示館を訪れられ、日々に平和の戦列に加わる状況を見て、今は久保山さんとも福竜丸の果たす役割の重大さに感動しておられるようです。ことに、小学生・中学生の参観に感激しておられます。
福竜丸展示館こそ、平和のシンボルだと思えます。故人の広田先生の平和を願われ、それに命をかけたられた貴い存在だと思えます。
福竜丸平和協会の発展と充実が日本の平和、世界平和が約束されたと同じです。(元焼津市会議員)

祝

第五福竜丸平和協会
創立八周年

岡倉古志郎

アジア・アフリカ研究所所長

榎田ふき

日本婦人団体連合会会長

戸倉恒治

福岡県平和委員会理事長

北九州市小倉北区泉台三二五二〇四

いつでもどこでも
反核・平和の
「種まく人」
山崎 元

この夏偶然カナダへ反核平和の連帯の旅に出かける機会をもちました。偶然というのは第二回国連軍縮特別総会に向け東京原水協代表として選出されたのに、他の二百名からの日本原水協の仲間とともにアメリカ・レーガン政権によって、国連への入国ビザを拒否されてしまったからです。私は以前に『ビキニ水爆被災資料集(平和協会編一九七六年刊)』を読んで二十五年も前に、久保山愛吉さんの未亡人久保山すすさんが夫の三回忌をすませたあと夫婦連の櫛田ふきさんや静岡の平和の仲間にはげまされて国連総会に出席を決意し、荷物をまとめて上京したにもかかわらず、アメリカ大使館と日本外務省によって、やはり入国ビザを拒否された歴史的事実を知っていました。

展開したあと、ロンドン・ボンソナダへ核問題の資料を送り届けてくれたと、広田さんのかくれた国際貢献のひとこまを教えてくださいました。

NATOと北米防衛同盟と二つの軍事同盟下にあるカナダでも、反核平和の運動は目を見張る広がりを見せていました。バンターバーやトロントで二万、三万の市民集会が開かれていました。アメリカの巡航ミサイル実験場反対という具体的な課題で。カナダの面積は日本の三十倍、人口は逆に五十分の一。日本やヨーロッパでの二十万、三十万の集会に匹敵します。この草の根運動が効を奏して、トルード保安党独裁政権をして国連軍縮特別総会開会中はアメリカに承諾しないと約束させました。その後今日まで発射実験を阻止しつづけてきています。

カナダでは労組運動の民主化が不十分のため知識人・市民・学生が反核平和運動の中核を担っています。その知識人の一人ステファーン・サラフ教授の家に招かれたとき、開口一番故広田重道氏への哀悼のことばが告げられました。ミ

スター・ヒロタは死の直前までカナダへ核問題の資料を送り届けてくれたと、広田さんのかくれた国際貢献のひとこまを教えてくださいました。

ビザ拒否撤回闘争からカナダへの平和への旅を通じて、あらためて広島・長崎・ビキニを体験した日本人は、いつでもどこでも反核・平和運動の「種まく人」として期待されていることを痛感しました。

(国立国会図書館司書)

運命の船との
初対面
櫛田 ふき

弁護士
渡辺 卓郎
千代田区九段南四七―三三島ビル
電話 二三〇―二二七五

東京都原爆被害者
団体協議会(東友会)
会長 片岡 強
副会長 伊東 壮
副会長 藤平 典
副会長 長尾 當代

日本平和委員会
東京都港区芝一―四九平和会館内
電話 〇三―四五一―六二七七

民主青年新聞
日本民主青年同盟中央委員会
委員長 大幡基夫
東京都渋谷区神山町四
電話 〇三―四六八―五三〇一

青年のたたかいをリードする

んとわたしの三人づれば、まだ見ぬ恋人にでも会いにくような心さわぎで東京の西のはづれから東のはづれへいそいだ。

夢の島の草いきれの中をたどりついた東京湾の片隅「船の墓場」といわれる。波もよせてはこない水際に横倒しになり、氣息えんえんの第五福竜丸老いの姿を見た。数奇な運命に鞭うたれ力つき果てた敗残を物語っていた。このうえ傷めつけないように静かに、そつと甲板に上がり、生れてはじめて漁船の内部を見た、遠く海の幸求めて、私たちの食膳を飾ってくれた海の男たちの船内生活の貧しさも知った。私たちはこのビキニの証人のあわれな姿に涙した、何とも謝罪したい気もちでいっぱいだった「でももう大丈夫わたしがついていけるから」と心に誓ったものだった。

「はやぶさ丸」と標示してあるこの船が、かの第五福竜丸だと告げた港湾局の方に感謝したい。あわや夢の島の土と化す寸前を、江東の草の根の良識に救われ、民主運動に支えられ、革新都政に応えられて、私たちの反核・平和のメ

ツカとしていま、ひろしま・長崎に加えて夢の島に第五福竜丸展示館が厳然として存在することはなんとすばらしいことか。

第五福竜丸平和協会創立八周年の意義はきわめて深く、限りなく重い。

(日本婦人団体連合会会長)

ビキニの
証言者たちへ
長崎から
鎌田 定夫

第五福竜丸平和協会の創立八周年おめでとうございます。ヒロシマ・ナガサキが日本の国民的体験として、また人類最初の核戦争の体験として人びとの意識に浮上する契機となったのは、いうまでもなくビキニ水爆被災事件であり、第五福竜丸被曝の事実でした。三宅泰雄、猿橋勝子その他の科学者たちや医師たちがその真相を解明し、第五福竜丸とその船員たちとともに、その後の原水禁運動のいとぐちをつくられたのでした。私どもは被爆直後から開始され

たヒロシマ・ナガサキの証言のさまざまな試みを「証言運動」という草の根反核運動へと持続して十五年を経過しました。「長崎の証言」運動は毎年三月一日のビキニデーでの街頭アピールや集会を起点として展開していますが、第五福竜丸平和協会との関連でいえばその創立の年、一九七四年七月に刊行された『長崎の証言』第六集に、広田重道先生より「ビキニ被災二十年目の証言―原水禁運動の原点をみつめて」という論文と、「久保山さんへの手紙は訴える」(加納竜一ほか)というレポートを収録し、それ以後何回か広田先生その他の発言をとりあげてきました。

また、三宅、服部学その他の諸先生には原子力船「むつ」問題でも非常なご支援と助言をいただき、平和教育の上でも田川時彦、根岸泉その他の在京の先生方の実践と理論に学んでまいりました。この点で、革新都政の下で第五福竜丸展示館が生まれ、東京大空襲の体験の上にビキニの体験を重ね合わせ、そこからヒロシマ・ナガサキをとらえ直すそうとしてきたこと、

さらに最近では東京大震災の朝鮮人受難者の復権をめざす草の根的運動が展開されつつあることは、きわめて示唆的だと思えます。ビキニ体験はそのまま南太平洋諸国民の受難、アメリカ国民の核実験被曝の体験につながります。

この意味で、第五福竜丸平和協会と展示館は、内外の反戦反核運動の一大拠点として、きわめて重要な役割を担ってきたし、今後ともいっそう立派に果たしてほしいと期待しています。

そのためには故広田重道先生のように、この道ひとすじに生涯をかけてたたかひぬく、草の根の語りで、証言者たちがひとりでも多く育つことがいま求められています。

長崎の証言の会ではきょう十一月十四日、今年度第四回長崎平和市民講座と総会を開きますが、広島島の証言の会とともに、『ヒロシマ・ナガサキの証言』(季刊)を通して、皆さま、ビキニの証言者たちとしっかりスクラムを組んで世界の反核運動の旗手としての使命を果たしたいと決意しています。

(長崎証言の会)

るような二枚舌の首相をもっている、私たちひとりびとりではないか。

第五福竜丸についてはこの「たより」に連載されている島田興生氏の写真と文章をはじめ、長谷川潮氏が最近『第五福竜丸物語』、水爆実験と人間という記録文学を季刊『児童文学批評』四号に書きはじめています。こうした地味で地道な訴えを、人びとに伝える平和の「展示館」として、第五福竜丸展示館の資料室を豊かなものにした。私にはそれが南太平洋の人びとと連帯できる、一つの大切な接点だと思えるから。

(児童文学者)

見崎吉男さんの

手記を読んで

戸倉恒治

今年ヨーロッパやアメリカで反核の草の根運動が生原の火のように燃え広がったが、原水爆禁止運動は今から二十八年前の一九五四年三月一日、ビキニの水爆実験

によってまぐる漁船第五福竜丸が放射能降下物(死の灰)を被ってから全国民の怒りが爆発して始まったものである。その意味からも久保山愛吉さんの「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」の遺言は、その言葉の重みにおいて地球の重さにも匹敵するものであろう。

私は同じ第五福竜丸の漁労長、見崎吉男さんの手記を一九八二年九月二十三日の「福竜丸だより」(号外)で読んだが「……この水爆を作った科学者も、また米大統領はじめ世界を動かす力を持っている政治家も一人ではどんな力もない。……すべてのかたがきを捨て、すべての名誉を捨て、財産を地位を捨てて涙の味を知る個人の間となるとき彼らも亦声を大にして「水爆禁止」を叫び、不幸な人々と共に悲しみ、苦しむだろう。」そして又「……何時の時代でも次におこるべき何かを心配し、心静かなる楽しい時代をほつし涙を流す人間は地位や名譽も財産もない人々である。いつわりのない世界をほつし、人間らしく生きようとする人々は何時裸の人

々である。人のことを我がことのように苦しみ、共に泣いてくれ、共に喜んでくれる人々は人間の涙の味を知る人々であり、涙の苦しさを知った人間の生活がどれほど尊いか知っている人々である。」と記されている。

これらの言葉には権力者がいかに非人間的で一般の庶民がいかに悲しいか、共に泣いてくれ、共に喜んでくれる人々、人間の涙の味を知る人々であり、涙の苦しさを知った人間の生活がどれほど尊いか知っている人々である。」と記されている。

事務局から

師走はどことも忙しいが、展示館は十一月がことのほか、あわただしい。連日、先生ならぬこどもたちを追いかけて、説明に注意に走りまわっている次第。こうして月間見学者が一万名をこえたのは昨五月について二回目。平和協会創立八周年の記念日に、いままでの最高を越えたのもうれいことであった。このあい間をぬって十一月展示替にあくせく。より鮮烈に科学的にモットーに限られた予算にばいばいに使い、大いに模様替。原子雲の大きな写真や、科学調査船俊鶴丸の活躍と調査結果などのパネルも新調した。なかでも大仕事は、高さ二メートル余

人間の大きさを見事に描かれており、又既にこの中には反核の草の根が、その芽をのぞかせている。日本の反核運動は世界の最前線にあるが、それは第五福竜丸のこれらの素晴らしい人々の存在が、その原因の大きな一つであらう。(福岡県平和委員会理事長)

核世界の先端

マーシナル諸島

アメリカの「検診」を否定するところ

DOE(米国エネルギー省)の医師団はロングラップ島に五日間滞在した。この間、小学校は休校になり、こどもたちも老人も、少数の例外を除いて皆診療所に集められた。

写真・興生 島田



診療所を受けた村人で、レントゲンや血液などさらに精密な検査を必要とする人々も、少数の例外を除いて皆診療所に集められた。

精密検査を受けるためDOEの診療船内でまっつロンゲラップの人たちもこの時はおし黙っていることが多い。(八七年一月)

とされるものは、村の沖合に停泊している医師団の船「リカトナー号」にボートで連れていかれた。

ホノルル船籍で貨物船を改造した「リ」号は約二百トン。前甲板にはコンテナ型の大型キャンピングカーが二台すえられ、診療室と歯の治療室になっていた。甲板下の船内はいくつかに区分され、血液検査室、レントゲン室、暗室のほか、ドクタールームがあり、各スタッフのベッドがカーテンで仕切られていた。

船によれば村人たちに對する検査の結果は、前号に書いた寄生虫や貧血など一般的なものの以外はまず発表されない。そのせいか、村人側も割り切って、適当にDOEの検診を「利用」しているところも見受けられた。

DOEの滞在する五日間は毎晩のように十六ミリ映画が上映された。ラジオ以外全く楽しみのない島なので文字通り村人全員が役場の広場に集まり、西部劇やターザンの映画を眼を輝けて見入っていた。

医師団の船が島を離れるとき、浜にまで船を見送ったのは、牧師

夫妻ら少数の人たちだけで、送別会もなく、クールな関係を示していた。

今年十一月、マーシナル諸島を巡った豊崎博光さんによると、ロングラップ島全員が今年十月の検診を拒否したという。細かな理由はわからないが、蓄積した不満が検診拒否の形になったのは、これまでにも数回を数える。

お知らせ

賛助会員入会参加のお願いにあたって次の方々を新しく会員になってくださいました。(12月8日現在、到着順・敬称略) 個人：江口保、石川貞夫、針尾島カズ、武藤真澄、岸本勇夫、遠山公人、林英夫、末永浩、林重男、菅井幸雄、石井謙治、大谷省三、永井和子 団体：東京中央医療生活協同組合、青年劇場、東京労働金庫労働組合、船舶通信士労働組合、広島YMC A、長崎証言の会、東京都教職員組合労働組合(個人十三名、七団体)

今後も平和協会の発展のため引き続き賛助会員の入会をお願いいたします。